

平成20年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	やや少	やや少
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや多	やや多
	菌核病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	多	多
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	並	並
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	やや少	やや少
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	やや少	やや少
	ハダニ類	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は1.5%(3.8%)、発生圃場率は27.3%(39.6%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は1.2%(3.3%)、発生圃場率は36.4%(36.9%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は4.0%(1.8%)、発生圃場率

は27.3% (26.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難なので早期防除に努める。

イ 薬剤は葉裏までかかるように十分に散布する。

ウ 薬剤防除の際は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率5.2%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率5.0%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は9.1%(13.1%)であった。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は3.5%(0.8%)、発生圃場率は54.6%(19.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病(仮称)の発生への関与が明らかになって
いるほか、密度が高くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので薬剤の選定にあたっては十分留意
する。

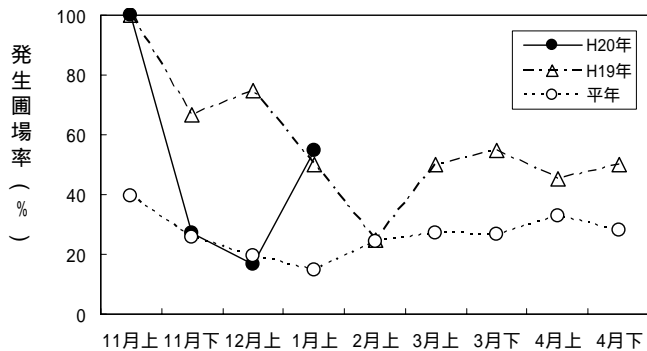


図 きゅうり コナジラミ類 発生圃場率の推移

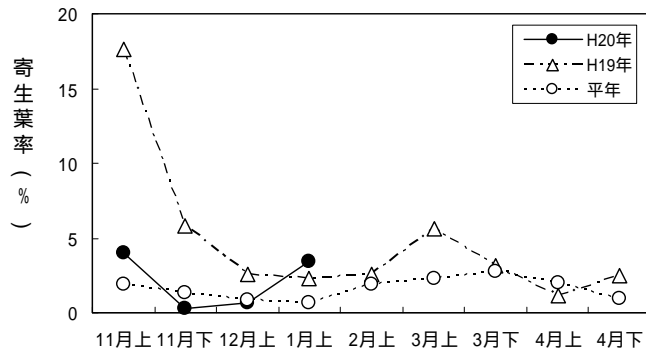


図 きゅうり コナジラミ類 寄生葉率の推移

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(前年1.6%)、発生圃場率は25.0%(前年41.7%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率2.0%)。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.1%(0.9%)、発生圃場率は16.7%(16.6%)であった。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は1.7%(9.7%)、発生圃場率は33.3%(40.1%)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.7%(0.3%)、発生圃場率は7.4%(10.4%)、果実では発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率6.6%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率0.2%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(5.5%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.3%(1.0%)、発生圃場率は3.7%(13.9%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は4.0%(2.8%)、発生圃場率は40.7%(25.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の増加に注意し、発生初期の防除を徹底する。

イ 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行なった後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

エ 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響のない殺ダニ剤を活用する。

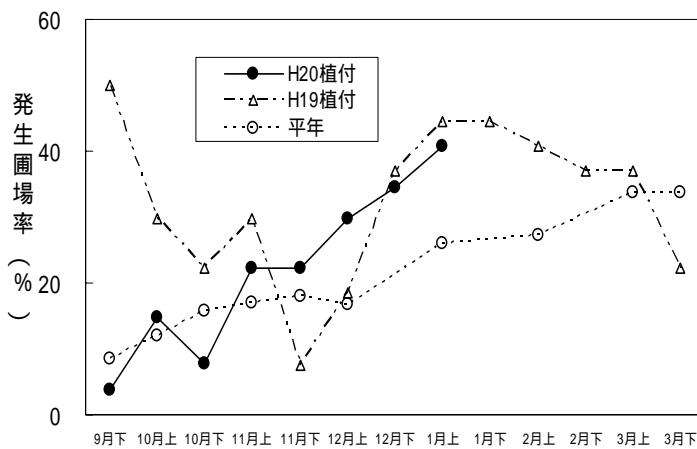


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

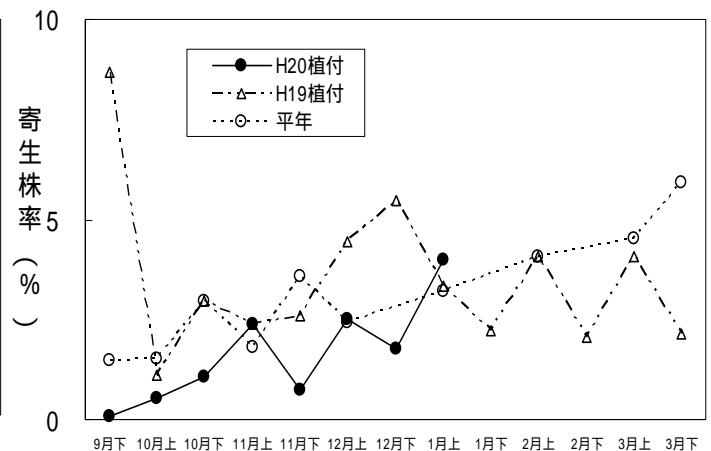


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

